

2010年
10月4日
発行：NPB
村上尚美
小笠原彰

【今日の鳥】

クマゲラ

学名：Dryocopus martius
英名：Black Woodpecker
全長：46cm

『幻の鳥』な扱いをされる鳥。
飛ぶ姿が個人的には恐竜的(?)に感じるので
プテラノドン(翼竜)の仲間と書きたいところだが
キツツキの類。
日本国内では最大のキツツキである。



パッと見はカラスで、大きさもそれに近いが
クマゲラはゆるやかな波状を描き
「コロコロコロ・・・」
と鳴きながら飛ぶ。

主に樹内に巣くうアリを食べるのだが、
そのために楕円形にほる穴は木片がうず高く
積み
「いや、あんたやりすぎだから・・・」
と誰しもがツッコミをいれなくなる派手さ。

『チップタツチカッパカムイ(舟を彫る神)』
と名付けたアイヌ民族の気持ちがおかってしまう

その生態から広い縄張りとなる大木のある森が
必要らしく、日本では数が減っており天然記念物
指定されている。



ニセコ某所で発見した
現場写真

(小笠原)

羊蹄山避難小屋は10月11日
以降管理人不在になります。

雨が稜線で雪に変わってしまう
かなーり怖い時期ですので、
不用意な登山は控えるように
お願いします。

ニセコパノラマライン、エコー
ラインの道路各線は平年10月
末から通行止めとなります。
ご注意下さい。

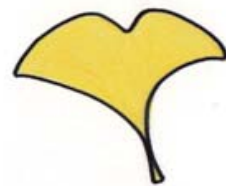
【紅葉うんちく】

落葉とは・・・

秋が深まり気温が下がるに連れて木々は根から水分を吸い上げる力が弱くなります。
葉からの水分蒸発を防ぐため、葉と枝の間に栓のようなもの(離層)を作って葉を落とします。
このとき、葉と枝の間とで水分や養分の流れがせき止められるため紅葉が起こります。

黄葉とは・・・

離層が形成されることによって葉緑素が分解され、
もともと葉に含まれていた黄色の色素カロチノイドが目立つようになって起こります。



紅葉とは・・・

光合成により葉で作られていた糖分が離層の形成によって蓄積されます。この糖分からアントシアニンという色素が合成されることによって起こります。



(村上)

鏡沼のようす 9/25

鏡沼周辺では、ヤマドリゼンマイ、ミズゴケ、ホロムイイゴの紅葉がとてもきれいでした。道中、オオカメノキ、ナナカマド、ホオノキの赤い実が目立ちます。

森全体はまだ緑ですが、コシアブラの葉が真白になっていたり、シラカンバの黄葉が少しずつ進んできています。彩りの季節はもうすぐです。

このページに関するお問い合わせ

murakami@nisekotourism.com

むらかみまど



ホオノキ



アザミが食べにく

赤い実が目玉引く
10~15cmほど

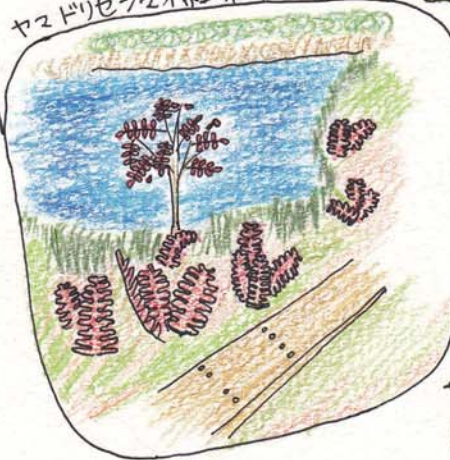
運がよければ

ひょこり出てきたやつに出会えるかも



エゾヤチネズミ

ヤマドリゼンマイ紅葉中



鏡沼

ナナカマド
赤い実がいっぱい

ツルリンドウ
つやつやな実

今月のガイドBOOK

自然情報雑誌

faura <生物多様性> No.29

有限会社ナカラリー

今年が国際的に決められた生物多様性の年。日本はその議長国です。そして、10月には名古屋でその会議 COP10が開かれます。fauraでは、北海道での多様性について、開発による危機、外来種による危機、温暖化による危機などについて33ページに渡って特集されています。

シラカンバ
黄葉してきた



ツルニンジン
(ジイブ)



ちゅと変わらぬ実

オオカメノキ
ワイン色に紅葉

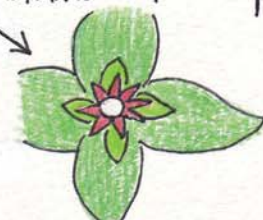


冬芽

実が落ちたあとの
模様もキレイ



ツクバネソウ



ベニテングタケ

葉の形が
牛の額

ミゾバ
群落
(別名:ウシヒタイ)